

特別支援学校における 学校図書館の取組と今後の運営充実に向けて

東京都立永福学園
統括校長 緒方 直彦

1 特別支援学校の学校図書館の概況

(1) 小中学校等・特別支援学校と本校の比較

表 学校図書館の概況比較

	小・中学校等 (令和4年12月～令和5年1月、平均)	特別支援学校 (令和4年12月～令和5年1月、平均)	永福学園 (令和6年度状況)
学校司書	0.8人	0.6人	0人
図書購入費	約40万円	約18万円	約35万円
蔵書タイトル数	約1万点	約5千点	約2千7百点
貸出冊数	約1万3千冊	約1千冊	約3千冊
専用の部屋の広さ	約115㎡	約60㎡	約90㎡

【参考】 令和5年度文部科学省委託事業「学校図書館における読書バリアコンソーシアム」アンケート結果詳細版（令和6年3月8日公表）
https://accessreading.org/conso/assets/img/docs/R4dokushoBF_FullReport.pdf

(2) 本校の学校図書館等の状況（整備以前との比較等）



【写真】現在の永福学園学校図書館の様子



【写真】大型絵本



【写真】廊下脇スペースの蔵書棚



【写真】書棚の様子(表示等)

表 新旧の比較(永福学園学校図書館)

新旧	バリアフリー	蔵書タイトル数	貸出システム	貸出冊数
新	△	約2千7百点	電 子	約3千冊／年
旧	×	約1万点	手書き	約百冊／年



(旧)整備以前 令和4年4月頃

(新)整備後 令和4年10月頃

(3) 本校における成果と課題

①成果：読書センターとしての機能が充実

- ・貸出件数 (整備以前)百冊以下／年→ 3千冊以上／年

②課題：学習センター及び情報センターとしての機能強化

- ・アクセシブルな図書等の充実(電子図書等)

○「読書センター」としての機能

児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場としての機能

○「学習センター」としての機能

児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする機能

○「情報センター」としての機能

児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする機能

【参考】 都立光明学園の学校図書館

表 光明学園学校図書館の概況



光明学園

蔵書タイトル数	約5千冊
専用の部屋の広さ	約460m ²

※令和7年2月現在



【写真】 光明学園の学校図書館 ～床からの空調・見やすい照明、適切な高さ～

学校の状況により施設設備・蔵書等の状況は大きく異なります。

2 東京都における取組

(1) 教育委員会及び都立図書館の取組

○言語活動及び読書活動充実事業（平成29年度～）

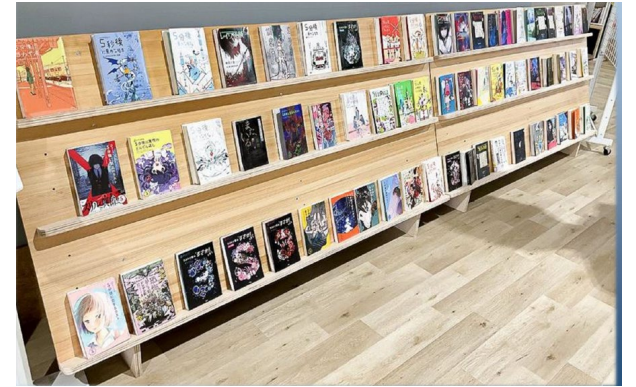
- ・研究推進校を指定して実施
- ・実践事例等の情報提供

※学校図書館の整備と読書活動の充実に向けたロードマップ

○ 都立特別支援学校への図書館管理システムの配備(令和5年6月～)

○都立特別支援学校における図書の学校間貸借開始(令和6年1月～)

○都立多摩図書館の東京都立特別支援学校向けセット貸出(試行)実施
試行期間 令和7年1月から令和7年3月末まで
令和7年度から全都立特別支援学校を対象に本格実施を予定



(2) 東京都教育委員会研究推進団体の取組

○東京都立特別支援学校読書活動研究会



- ・全都立特別支援学校が参加可能な公開型の研究協議会を定例(2回／年)で開催
- ・読書活動充実事業(前掲)の研究推進校の実践報告と会場校の事例報告

表 研究会活動状況

回	2021年度 ①	2021年度 ②	2022年度 ①	2022年度 ②	2023年度 ①	2023年度 ②	2024年度 ①	2024年度 ②
会場校	光明学園	八王子東	永福学園	鹿本学園	府中けやきの 森学園	城東特支	光明学園	墨東特支
推進校報告数	3校	3校	7校	7校	5校	5校	6校	6校
参加校数	33校	30校	34校	35校	38校	35校	40校	42校
参加人数	82人	80人	93人	101人	108人	90人	145人	160人

東京都教育委員会や都立図書館、研究団体等の取組が、
各学校の取組を促進させている。

3 今後の学校図書館の運営の充実に向けて

～特別支援学校における読書バリアフリーへの対応～

(1) 施設・設備の整備

○並置型の特別支援学校における施設、設備のユニバーサルデザイン化

障害種別により便利・不便は異なるため、複数の障害に対応する環境整備を促進させることが重要

視覚障害 → 全盲(点字)、弱視(拡大機)、色覚異常(表示の色)等への配慮等

聴覚障害 → 字幕・手話通訳機能を有する設備等

肢体不自由 → 見えやすい、動きやすいスペースや高さ等

知的障害 → わかりやすい表示等の工夫等

病弱 → 感染症予防の対策等

(2) 各種資料等の整備・活用促進

○ 障害種別に対応した各種資料の整備

LLブック、マルチメディアデイジー図書、電子図書等の様々な資料の充実

○ 学校間連携による蔵書の有効活用

都立特別支援学校における図書の学校間貸借(前掲)等の取組を参考

- ・各学校の取組だけでは予算的にも限界
- ・共通の図書管理システムの導入が前提

○ 公共図書館と学校との連携

都立多摩図書館の東京都立特別支援学校向けセット貸出(試行)実施(前掲)の
発展的取組に期待

(3) 人的支援(ボランティア含む)

○ 学校図書館で合理的配慮の提供に資する学校司書の配置促進

※障害種別の合理的配慮の基礎知識が必要

○ 教職員(司書教諭・学校司書)以外の学校ボランティア等の協力促進

・教職員だけでは取組に限界

・特別支援学校の学校図書館ボランティアの養成(公開講座等にて)

ご清聴ありがとうございました。